

2020年9月27日 同仁キリスト教会

説教「38年間病気の人の癒やし」 ヨハネ福音書5章1～13節

埼玉中国語伝道所主任牧師 森永憲治

あれだけ暑かったのに最近急に涼しくなりました。この夏みなさんいかがお過ごしだったでしょうか？僕はこの夏もいろいろなことがありましたが、この夏は虫に縁があって、昨日なんかは、虫では無いのですがスマホを取ろうと思ってポケットに手を突っ込むとヤモリがいたり。最近ではクワガタムシにはまってしまってネットで買いまくり。オオクワガタ、ヒラタ、ミヤマ、ノコギリ、コクワと、主要ラインすべてそろっております。それでふと見ると、何とネットでダンゴムシまで売っているんですよ、「激カワ」とか言って。外国のものでカラフルで、それで買おうかなと思ったのですが、奥さんの視線がそろそろ怖いんですよ。家庭の平和維持のためにやめておきました。

それでどうしてそうなったかという、きっかけは大量のカブトムシが今年の夏は我が家に飛んできたことでした。シマトネリコというカブトムシの好きな木を庭に植えていて、数年前にもこういうこと一度会ったのですが、今年は異常。庭木のシマトネリコが傷まないようにと採りまくって採りまくって採りまくって、合計440匹となりました。そのうちまず南三鷹教会の幼稚園に持って行って、あと、埼玉のキリスト教会の幼稚園に120匹持っていき、そしてこの同仁美登里幼稚園には200匹持ってきました。こんなにたくさんでもとても美登里幼稚園ではあつという間に父兄が喜んで持って行って下さったと聞きました。嬉しい限りでした。それでまだ終わっていないんです、同仁教会の会員さんが少し持ち帰ったところ卵を産んで孵ったそうで。今は第2世代となっています。

そんな訳でこの夏はクワカブをじっくり見る機会が多くあったわけですが、見てみるとケンカばかりしているんですよ。それで良く見ると、エサの取り合いなどでケンカするのですが、その時に勝った方は負けた方をこれでもか、というくらいに追撃したりするんです。メスも同じで、メスは大人しいなんてウソ、そこまでするか、とやったりしています。それでふと思ったんです、私達人間も、ついついこんなことしてしまいますよね。何か不愉快なことがあると怒ったりするのは当然でも、そこまでする必要があるのかなって、やってしまうんですよ。でも私達は神様に愛されている人間であって、動物や昆虫じゃないんです。「倍返しだー」なんて言っている場合じゃない。それで聖書には「あなたの敵を愛しなさい」とあるじゃないですか、あれ、決してクリスチャンはそうあるべきとカッコイイこと言っているんじゃないんですよ。嫌な相手に対して仕返ししてやろうなんていつまでも思ってやりすぎるようなことをすると、結局自分が傷つくんですよ。本当にそうした方がいいからイエス様はそうおっしゃったんですよ。私達は何かあってもいつも、そうした聖書の言葉に帰りたと思います。それが人生を幸せに導いて下さいますから。

さて、以前の僕の任地だった水戸に偕楽園という梅で有名な公園があり、春にはたくさんの梅が咲き、それは大変きれいです。機会ありましたら是非皆さん一度遊びに行ってください。そしてそこには吐玉泉という、湧き水が出ているところがあり、科学的根拠は無いはずですが、その水は目の病気が治るそうです。

僕はその吐玉泉に行った時、僕は目は特別悪い訳ではありませんが、「目の病気に効く」と書いてある説明文を見て、試しでその水で目を洗ってみました。結果はもちろんそれで目が良くなることはありません。あくまで遊びでやってみただけです。

僕が吐玉泉で目を洗っても、「頭のおかしな森永がまた変なことやっている」と、笑って終わりの話です。しかし、本日の説教の箇所「ベトザタ」と呼ばれるところも病気を治すと言われる池であり、そこで38年間も治るのをただ座って待っていたとなると、笑って済ませる話ではないのです。これが本日の聖書箇所、すなわちヨハネ福音書の第三番目の奇跡の話、ベドサダの池で38年間治るのを待っていて、イエス様に救われた人の話です。

まず初めにあくまでこれは参考にして下さればいい話ですが、2節「五つの回廊」の五というのは、律法五書すなわちモーセ五書、創世記、出エジプト記、民数記、レビ記、申命記のことで、すなわち律法のことを表わし、そして5節の「38年間病気で苦しんでいた」という「38年」というのは申命記2章14節「38年かかった」つまりエジプトから脱出した後の荒野の40年の意味だ、という学説もあります。つまり本日の聖書箇所は、荒野の40年に合わせ、旧約聖書から脱却し新約聖書のイエスキリストのまことの救いを表わしている、という見方です。皆さんは、そういう解釈もあるんだ、と、頭に入れておいて下されば結構です。

さて、このベドサダの池の回廊には、3節「病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた」とあります。このベドサダの池というのは、7節に「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです」とありますが、湧き水なのか、風が吹いた時か、よく分かりませんが、とにかく池の水が何らかで動いた時に、一番早くまっさきにドボンと池に飛び込むと、その人に奇跡が起こって病気が治る、そう信じられていたようでした。

しかし皆さん考えて見て下さい。病気を治そうとしてこの池のところまでに来て、一日中じっとこの池を見ていて、ボコボコと何らかで動いた瞬間、そーれ今だ！、と誰よりも早くドボンと池に飛び込むことが出来るということは、その人は病気ではなく元気だと思っんです。そんな元気があるなら、わざわざ池に飛び込まなくても、もうすでに病気は治っているか、もともと病気ではなかったと思っんです。

さて、この人は 38 年間毎日そこに来て、横たわっていました。現在は日本人の平均年齢は約 80 歳ですが、こんなに長生きになったのはごく最近の話で、当時の平均年齢は、具体的な数字は僕は分かりませんが、イスラエルの当時の結婚年齢は 12 才くらいだったようで、平均年齢は 30~40 才くらいでしょうか？そういう状況下の中で、この人は 38 年間、すなわち人生のほとんど全部を、池の側で横たわっていたこととなります。

イエス様はこの人に尋ねました、6 節「良くなりたいか」

このイエス様の質問は、少し考えればおかしな質問だと思います。なぜなら、このベドサダの池の側にいるということは、病気が治りたいからというのは自明のことなのです。しかも 6 節「もう長い間病気であるのを知って」とある通り、イエス様はこの人が「良くなりたい」ことを知っていたのです。そこを敢えて「良くなりたいのか」と問いかけるのは、その人に失礼だと思うのです。

ここで皆さん思い出して下さい。6 月よりヨハネ福音書を中心に学んでいますが、イエス様の奇跡を起こすパターンに、何故かは分かりませんが、イエス様はまず意地悪なことをおっしゃることを学びました。ヨハネ福音書第一の奇跡カナの婚礼では、お酒が無くなって困っている母マリアに「私とどんな関わりがあるのです」とおっしゃいました。その次のニコデモとの対話、そしてその次のサマリアの女性との対話も、どちらも故意に話がかみ合わないことをおっしゃいました。そしてその次の王の役人の息子を治すヨハネ福音書の第二の奇跡では、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」とこれまた嫌味をおっしゃいました。

こういうイエス様のパターンを見ると、本日の聖書箇所での「良くなりたいのか」というのは、確かに失礼な言い方と取れますが、しかしそれは、実はイエス様が初めからその人を愛していて、その人に奇跡を起こし、救おうとしているのです。実はこのパターンはイエス様の奇跡だけではありません。旧約聖書を見てもそうで、聖書全体にみられるのです。

本日も改めてこのイエス様の奇跡が起きる過程を勉強しましょう。これはもちろん私たちにとっても同じです。私たちも困難が起こった時、イエス様に祈り求めましょう。イエス様は奇跡を起こして救って下さいます。ただし、それではイエス様はすぐに祈りを聞いてくれるのかといえばそうではありません、安心して下さい、まずは、あなたの祈りは聞かれないのです、奇跡は起きません。奇跡が起こって救われるどころか、その反対の、意地悪かなと思うような嫌なことがまず起こる、それが聖書で書かれている救いの奇跡が起こる過程なのです。

そしてその意地悪かなと思う嫌なことを、これは神様が私のためにそうして下さっていると信じ、喜んで受け入れましょう。その時に奇跡が起こり、あなたが考えていたこととは違う思わぬ形で祈りが聞かれ、奇跡が起き、問題が解決されるでしょう。

ここにクリスチャン生活の極意のようなものがあると思います。日々の生活の中で、順調なこと、幸運なことがあると神様に感謝し、不幸があると落ち込んでばかりというのが普通の人いわば異邦人ならば、クリスチャンは幸運があったときは素直に喜んだとして、逆に客観的には不本意なことがあっても、もちろんその不本意なことがあった瞬間は怒ったり悲しんだりするのは当然としても、少し経ったら聖書の言葉を思い出し、聖書に従うのです。そうすればイエス様は必ずあなたを奇跡に満ちた幸せな人生に導いて下さいます。皆さんと一緒に読みましょう。そうです、例えどんな困難の中に陥った時でも、この聖書の言葉通りに人生を生きればいいのです。テサロニケの信徒への手紙第一 5 章 16 節、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、イエスキリストにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」

さらに本日の聖書箇所で見落としてはいけない点は、他の箇所のイエス様が奇跡は、人が困ってイエス様のところに来て、イエス様をお願いし、奇跡をもって救って下さるのに対し、本日の箇所ではイエス様の方が一方的に近づいて下さり、救いの奇跡を起こされました。この 38 年間ベドサダの池に来続けた病人は、ベドサダの池の奇跡を信じたのであって、イエス様に癒しをお願いした訳では無かったのです。それどころか 13 節「それが誰であるか知らなかった」、つまり 38 年の病気が治った時、それがイエス様が治して下さったことは分からなかったのです。イエス様の方から病人が知らない間にいらっしやって、救いの奇跡を起こされました。

つまり本日のこのヨハネ福音書における第三の奇跡も第一の奇跡カナの婚礼の時と同じように、奇跡を起こしたのがイエス様だということは周囲の人や弟子たちは知っていたものの当事者は知らないのです。そして第二の奇跡でも、助かった王の役人の息子は、自分は何もせず何も知らない中で救われました。イエス様の救いの奇跡とはこういうもの、救われた本人は全く理解していない中で奇跡が起き、救われました。

私たちもしっかり学びましょう。まず第一に、神様の救いは、私たちがイエス様を選んだのではないのです。神様が私たちを選んで救って下さるのです。そして第二に、38 年間ベドサダの池に来続けた病人も、ベドサダの池の奇跡ではなくイエス様の奇跡で救われるという、思いもかけない形で救われました。私たちはすべてをイエス様に委ね、信頼すれば、思わぬ形で私たちの心からの望みを叶えて下さることを信じましょう。第三に、奇跡とは

当事者が知らない間に起こっている、つまり、私たちもただ自分が知らないだけですでに奇跡が起こっていて救われているのです。そしてそれはこれからも同じ事、イエス様は私たちに奇跡を起こし続け、幸せな人生を導いて下さると堅く信じましょう。

38年間の病人は何が病気だったのでしょうか？7節をもう一度見てみましょう、「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」とあります。もう皆さんお分かりですね。この病人は、自分の病気が治らないのを、他人のせいにしてしているのです。これがこの病人の根本的病気でした。38年間、自分の不幸を、他人のせいにしてきたことです。それに対してイエス様は8節「起き上がりなさい、床を担いで歩きなさい。」

たったこの一言で、38年間の病気が治りました。そうです、この人には、自分の人生は他人に頼らず自分の力で歩む、それを実行すればいいだけだったし、そうすれば神様は奇跡をもって導いて下さるのでした。

本日の聖書の箇所も、私たちが学ぶところはたくさんあります。その中で本日の箇所から学ぶべきところは、

「自分の不幸を他人のせいにしてはいけない。自分の人生は自分の力で歩む。その時に神様は奇跡を以て助けて下さる。」
でしょう。

神様は奇跡を本当に起こして下さいます。そのことを信じて、たとえ目の前の現実是最悪であっても関係ないんです、いつも喜んで感謝をして、自分の足で日々を歩みましょう。